

登録記念物への登録

《登録記念物（名勝地関係）の新登録》 2件

1 松樹館庭園【滋賀県東近江市】

松樹館庭園は東近江市五個荘竜田町にある近江商人松居氏の旧宅の庭園である。松居氏は初代松居久右衛門（1619～1684）以後、歴代当主が久右衛門を襲名し、7代目久右衛門（1815～1887）の時に松樹館庭園が造られたと考えられている。実際の作庭は松居家と交流のあった勝元宗益（鈍穴）（1810～1889）が行ったとされる。

勝元宗益は本名を源吾といい、長浜に生まれ、茶道、俳句、和歌、華道、南画、作庭等に通じていたという。茶道では宗益、作庭では鈍穴を号とし、多くの庭を造ったという。

主屋等の建物の北から北東に造られた主庭は、高さを抑えた低めの築山を設け、飛石の園路を巡らせている。築山は建物から見て手前に2つ、奥に1つあり、手前の築山の裾を回り込むように打たれた飛石がさらに奥の築山へと伸びる。その途中には流れもあるが、現在は水は流れていない。奥の築山には大きな春日燈籠が置かれ、周辺に景石を据える。樹木はマツ類を中心にカエデ類等の高木のほか、ツツジ類等の低木を多めに植えている。

松樹館庭園は幕末から明治にかけて活動した作庭家勝元宗益（鈍穴）が近江商人の居宅に造ったとされる庭園で、造園文化の発展に寄与した意義深い事例である。

2 漢陽寺庭園【山口県周南市】

漢陽寺は応安7年（1374）に創建されたと伝わる禅宗寺院で、周南市北部の鹿野地域の山裾に位置する。庭園は、昭和43年（1968）に当時の住職らが、作庭家で庭園研究者の重森三玲（1896～1975）に作庭を依頼し、昭和44年から数年をかけて造られた。

漢陽寺の裏山には、17世紀半ばに掘られた灌漑用のトンネル「潮音洞」があり、重森はそこから流れ出る多量の水を用いて「曲水の庭」を造ることを考えた。本堂（方丈）の南にある「曲水の庭」は、曲水を中心としつつ枯山水を融合させ、潮音洞から分流した水を流す。本堂の北と東には、同様に潮音洞からの水を流す「蓬萊山池庭」「九山八海の庭」が、中庭として現在「地蔵遊化の庭」と呼ばれている枯山水がそれぞれ造られた。重森はそのほかにも、自身が設計した建物に「瀟湘八景の庭」を、山門前に「曹源一滴の庭」と呼ばれる枯山水を造った。

漢陽寺庭園は作庭家重森三玲がさまざまな様式、主題、意匠で造った複数の庭園から構成され、造園文化の発展に寄与した意義深い事例である。